



オータムティアラ

3歳牝・ダート1900m M1

9月28日（日）水沢競馬場

昨年の優勝馬・リケアマロン

JBC協会協賛 HITスタリオンシリーズ／テレビ岩手杯

第6回 オータムティアラ（M1）

（チュウワウィザード賞）

水沢競馬場／3歳牝・ダート1900m

9月28日（日）第12競走 18：05発走

オータムティアラは3歳牝馬三冠の最終戦として2020年に新設。第1回から第4回まではOROパーク盛岡競馬場で行われ、レース名も『OROオータムティアラ』とされていました。2024年の第5回から水沢競馬場に移り距離も2000mから1900mへ100m短縮。レース名からはOROが外れて『オータムティアラ』になりました。

2023年の第4回を制したミニアチュールはその年の最優秀牝馬・3歳最優秀馬に選出。3歳世代の牝馬に留まらない“強い牝馬”を送り出すレースとして定着しつつあります。

■プレシャスアセット(牝3 盛岡・永田幸宏厩舎)



春にJRA未勝利から移籍後、その初戦で2着に、3戦目で3着に食い込んだ後は掲示板圏を争う戦いが続いていたが、芝という舞台を得て成績が急上昇。オパールカップでは岩手最先着の3着、前走の条件交流戦ではJRA勢を撃破する勝利を挙げた。

この戦績通りに現時点でのベストは芝という事になるだろうがダートでも手応えが十分あるのは忘れずにおきたい点。芝で破ってきた地元勢のレベルも決して低くはなく、その力を存分に発揮できればここでも面白い存在になっていいはずだ。

「前走で示したように力を付けているしダートもこなしている。距離も伸びて大丈夫な手応えであり体型だと思います。1枠をゴチャつかずに乗り切ってくれば。（永田幸宏調教師）」

■ビップジェシー(牝3 盛岡・飯田弘道厩舎)



前走は4月の留守杯日高賞。その時は本馬を“中距離の経験が強みになってよく、ここで手応えある走りができるなら今後の展望も広がるだろう”と評価していた。その時は残念ながら9着に終わったが地元での重賞入着級の馬たちと大きな差が無く戦えた所は一定の評価をしておきたいところだ。今回はその時以来の5ヶ月ぶりの実戦になるだけに自分との戦いの比重も大きくなるが、春に積んだ経験を活かした見せ場に期待したい。

「夏は牧場で長めにリフレッシュ。前走の重賞では苦戦しましたがその前にはミナトミナイトと差のない競馬ができているし、距離経験も活かして戦えれば。（飯田弘道調教師）」

■インディーフィルム(牝3 水沢・板垣吉則厩舎)



この春の開幕を岩手所属として迎えた本馬は序盤の2戦を2着、続く2戦は2連勝と右肩上がりの上昇を見せた。直近の3戦は3着・4着・4着と着順後退の形にはなっているがぶつかった相手は伸び盛りの強敵や重賞でも掲示板圏内に食い込めるような馬たち、それを思えば互角に渡りあえている事を成長であり伸び代の大きさと受け取っていいだろう。もちろん重賞初挑戦、ここで自分らしい競馬ができるかどうか？は課題になるが、秘めた地力が互角であっておかしくはない。

「折り合いが付くタイプなので距離は対応できると思うし、暑い時期を休養して馬もフレッシュ。とはいえ重賞になって一気に相手強化に対応できるか？が課題でしょう。（板垣吉則調教師）」

■ナムラクレープ(牝3 水沢・佐藤浩一厩舎)



JRA時代は9戦して3着が最高だった馬が高知に転じて4戦3勝、さらに岩手に移籍して初戦快勝と急上昇。その高知でも徐々にしぶとさ・手堅さを増しながら連勝してきていたのだから、条件が向いたからというよりはここに来て軌道に乗ったゆえの連勝継続と考えるのが妥当だ。JRA時代に芝や短距離も交えて様々な条件で戦ってきた試行錯誤も今になって活かしているのだろう。ひとつ注意するとすればJRA時代には1800mがやや長いと評価されていた点。ただそれも成長を見せる今なら克服してくれるはず。

「牝馬の重賞に出したくて来た馬なのでここは狙っていたレース。前走も悪くない内容だと思うが、なにせ岩手では1戦のみ。力関係がどうか？だとは思いますが。（佐藤浩一調教師）」

■コックリサン(牝3 水沢・新田守厩舎)



9番人気で2着に食い込んだひまわり賞では波乱の片棒を担いだ形。その後は大きめの着順が続くが、ひまわり賞での、人気を背負った馬たちとゴール寸前までしのぎを削り合った末に手にしたその結果をブロックとってしまうのは惜しい。小柄なだけにタフな馬場での戦いでは割引感。逆に条件さえ整えばひまわり賞のような走りもできる馬だと考えておきたい。名前はちょっとドキッとするが非常にファンの多い馬だ。今日もそのファンの声援を背に戦い抜く。

「左回りよりは右回りの方が良い馬ですし中間の気配も変わりはない。ただ重賞で相手が強いので、それがどうかですね（新田守調教師）」

■ゴールドグラント(牝3 盛岡・飯田弘道厩舎)



今回の出走馬の中では唯一の南関東デビュー馬。船橋での2歳新馬戦で2着の後、17戦を経た時点で岩手に移籍してきた。今のところは2着1回・3着4回と勝ち星を手にしていないがしばしば僅差に迫る相手には強豪も多く、現時点では安定して力を出し切れていないだけだと評価しておきたい。南関東時代から後方待機の競馬が多く、岩手でも揉まれずに末脚を引き出す形が手の内に入りつつある。距離も父ゴールドドリームの底力發揮に期待。（写真提供・飯田弘道調教師）

「南関東では追い込みというか1400mくらいでは追走に苦心するような所を見せていたので長めの距離の方が合うかも。しぶとさが活きる展開になれば。（飯田弘道調教師）」

■サンカリプソ(牝3 水沢・菅原勲厩舎)



7月の芝重賞サファイア賞を8番人気の評価からV。芝シーズン開幕週の高速馬場が味方したとはいえ、2歳時から快速を武器に戦ってきた本馬にとってそれを最大限に活かせる舞台設定が整っただけであって、人気薄の激走だと決めつけるのは避けたい。実際、ダート重賞でも2歳時から健闘してきておりその実績・経験は今回のメンバー中でも最右翼と言っているものを持っている。距離はベストではないが折り合いを欠くタイプではない。ここでもファンをあっと言わせて不思議はないだろう。

「ダートは問題無い馬。前走も展開の割にはよく頑張ったと思いますが、この距離はちょっと長いかなと思いますね。（菅原勲調教師）」

■オールニッポン(牝3 水沢・伊藤和忍厩舎)



JRAでの5戦が全て芝の中・長距離、岩手ではまだ3戦のみ。こういう戦いができる馬なのかまだ掴みきれないのが正直な所。それだけに手がかりはやはりひまわり賞での走りになる。先行争いを制してハナに立ち4コーナーを回ったところでもまだ1馬身ほどのリードを保って先頭。最後は競り合いの中で屈したが、もう少しでも楽に逃げる事ができていれば…と感じるものがあった。主立ったライバルはその時とほぼ同様、距離に関しては対応可能を証明済み。ひまわり賞以上の結果をねらって挑む舞台だ。

「前走は距離がちょっと忙しかったように感じます。出脚がそんなに速くないので距離はむしろ長くないとダメ。今回の距離はいいと思いますね。（伊藤和忍調教師）」

■ミナトミナイト(牝3 水沢・伊藤和忍厩舎)



3歳馬として6年ぶりの出走になったビューチフルドリーマーCは善戦及ばず6着。しかしその戦いは古馬と戦う事で経験値を積み増すためでもあって、元々好・凡走を緩やかに繰り返しながら力を付けてきた本馬だけにその経験はしっかり活きていると考えていいはずだ。その前走後はここに挑む…のもひまわり賞時点からの予定通り。既に手にしている一冠に加えてもうひとつのタイトルも手に入れるための戦いになる。

「前走は思っていたよりは良いレースをしてくれた。厳しい戦いでしたがダメージもそれほど無く順調。距離・コースも合うと思いますから頑張ってもらいたい。（伊藤和忍調教師）」

■クラリティー(牝3 水沢・伊藤和忍厩舎)



同厩の僚馬以上にまだ掴みきれないのが本馬。JRAでは芝2000mを2戦したのちダートに転じて2着・5着と前進。ただ、デビューが2歳11月と遅く、その後も少し間隔をとりつつ成長を促しつつの計4戦だった事からすれば近走はダートで変身というよりは馬自身の成長分が大きかったと判断するのが妥当だろう。武器は簡単にバテない先行力。それはそれで同厩も同型、折り合いがカギに…となるのだが、本馬のスタミナが上回るのなら自分の形に持ち込める可能性は十分にある。（写真提供・伊藤和忍調教師）

「ひまわり賞に出すつもりでこちらに来ていたのですが順調さを欠いて仕切り直しました。まだ上昇途上かもしれませんが距離経験を活かして。（伊藤和忍調教師）」

■フタイテンホイール(牝3 盛岡・齋藤雄一厩舎)



ここまで重賞挑戦9回。タイトルこそまだ手にしていないがしばしば勝ち負けを争ってきているその実績は今回のメンバー中で最も豊富だ。JRAに移籍して芝に挑んでいたようにベストの舞台は芝で間違いないがダートでも勝ち星を挙げているし、東北優駿5着、ひまわり賞4着と長めの距離にも対応できている点は強みになっていいはず。10度目の重賞挑戦、いよいよタイトルに手が届いても何ら不思議はない存在。

「中間の状態は悪くなく順調、距離もこなせる馬だと思っていますが、やはり芝の馬の印象が強いですからね。ダートでも頑張してほしい。（齋藤雄一調教師）」

■スノーミックス(牝3 盛岡・永田幸宏厩舎)



春の重賞戦線ではあやめ賞でこそ大敗を喫したがスプリングカップでは牡馬に食い下がる4着、留守杯日高賞でも遠征勢に割って入る3着を確保。高い地力を備える馬なのは間違いない。ただそれだけに近走の苦戦が目についてしまうのも確か。金沢にいったん移籍・復帰してからのひまわり賞は、その際にも触れたように良化途上ながらも今回ここに挑むための距離経験を積もうと挑んだ面もあった。その苦心をここで活かしたい。

「今シーズンは折り合い面に苦心。中間の状態は悪くないですし調教で乗った感触も悪くない。折り合えさえすれば力を出してくれると思います。（永田幸宏調教師）」